

収収の過程、Permafrost河川の土壌発達状態および地衣類の着生状態などの観察が主な調査内容で、ウラム川上流のモレーン対比が試みられた(第1表)。また、構造土や移動量の大きい周氷河岩屑斜面などの周氷河地形がスライドを使い、2紹介された。

②東天山、天池付近のモレーン、化石岩塊流などの地形の紹介がおこなわれた。

これに対して、モレーンの比高や堆積物中の岩種などからモレーンの上に崩壊性の物質が多くあるとあることや、化石岩塊流としたものはモレーンと同じものである可能性のあること、ペディメント状の地形の扇状地としての扱いなどの質問や意見が出された。

11月の例会のお知らせ

日時 11月26日(土) 14:00-17:00

場所 明治大学・大学院校舎(教室は当日掲示します)

発表者

①清水 長正、沢口 晋一(明治大・院):北海道北見国武利岳の氷河地形!?

②小泉 武栄(学芸大):アラスカの氷河・周氷河地形——Permafrost会議の報告——

*) 会費(年間1,000円)未納の方は、至急 事務局にお支払い下さい。切手でもかまいません。なお、現在、会計が赤字状態とっておりますので、2~3年の滞納者への通信文の発送を打ち切る予定